

家畜保健衛生所情報

令和3年7月28日

府内でサルモネラによる下痢が発生！！

府内でサルモネラによる下痢が多発しております。発生状況は次のとおりです。

<発生状況>

7月下旬、複数の農場の搾乳牛に下痢が広がり、それぞれ検査を実施。

糞便よりサルモネラ ティフィムリウムを分離。

発症牛は生菌剤投与や抗生物質による治療を実施。また畜舎内外の消毒実施中。

「牛サルモネラ症」について

○子牛

<症状>

元気消失、食欲不振、発熱（40 から 42℃）、
下痢（悪臭がある。泥状ないし水様便。悪化すると血便。）

*症状なく突然死することがある

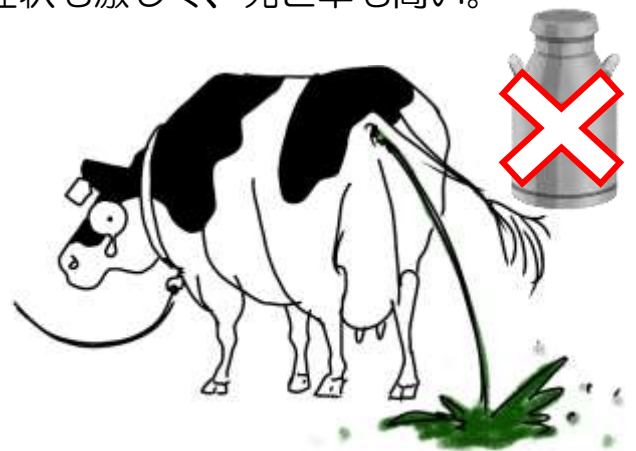
*肺炎や関節の腫れが見られることがある

1 か月齢以下の幼弱牛が最も感染しやすく、症状も激しく、死亡率も高い。

○成牛

<症状>

元気消失、食欲不振、発熱
下痢（悪臭がある。泥状ないし水様便。
悪化すると血便となり、時に偽膜が混じる。）
乳量減少、死流産（サルモネラ ダブリン等）



*サルモネラのうち、ダブリン、エンテリティディス、ティフィムリウム、コレラエスイスのみが「サルモネラ症」として届出伝染病に指定されています

*「牛サルモネラ症」と確定した牛の生乳は出荷停止となります。

サルモネラの外部からの侵入を防ぐために、以下の対策を講じましょう！！

- (1) 農場内に入出入りする車両消毒を実施し、外部からの侵入を防ぐ。
- (2) 牛舎内で作業する時は牛舎ごとに専用の長靴・作業着を着用し、日常使う服や靴で牛舎内に入らない。
- (3) 牛舎の入り口に消毒槽を設置し、牛舎に入出入りする際は長靴を消毒する。
(作業後も)
- (4) サルモネラは感染牛の糞便を他の牛が口にして感染するため、糞掃除で汚れたままの長靴で餌やりをしない。(特に靴の裏)
- (5) 牛舎内の清掃、飼槽や水槽、カーフハッチの定期的な消毒により、万が一、発生しても被害が大きくなるようにする。
- (6) サルモネラはネズミや野鳥などの野生生物も感染源となるため、野生生物が牛舎内に入りにくいようにし、畜舎内にいたら駆除する。
- (7) 導入牛はすぐに牛群に混ぜず、隔離牛舎もしくは隔離牛房で3週間ほど飼養し、健康に異常がないことを確認してから牛群に混ぜる。
- (8) サルモネラは人へも感染します。牛舎内作業をした後は手指をよく洗う。

日頃の飼養衛生管理基準の遵守が予防には欠かせません。
改めてチェックの上、実施していきましょう。

なお、詳しい情報は下記ホームページについてもご確認ください。

農研機構：

http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_fact/t17.html



本情報に関するお問い合わせは

大阪府家畜保健衛生所

〒598-0048 泉佐野市りんくう往来北 1-59

TEL：072-458-1151 FAX：072-458-1152
